

# 6月の職員オススメ本



「でいすべる」

今村 昌弘／著 文藝春秋

小学6年生のユースケ、サツキ、ミナは掲示係として壁新聞を作るため『奥郷町の七不思議』について調査していた。オカルト好きのユースケは怖い話を書くため、サツキは1年前に謎の死を遂げた従姉妹マリの遺品から見つけた七不思議の謎を解くため。オカルト肯定派のユースケと否定派のサツキ、中立のミナでそれぞれ意見を出し合い、3人は徐々に町の秘密と事件の真相に近づいていく！

『屍人荘の殺人』の著者が仕掛ける、ジュブナイル×オカルト×本格ミステリで中高生にも読みやすい一冊になっています。



「腕が鳴る」

桂 望実／著 祥伝社

七十一歳、安達タカ子は、夫が亡くなってからついモノを買い込んでしまい、部屋が散らかっていた。息子夫婦には、片付けがちょっと追いついていないだけなのに、ダメ人間扱いされる始末。そこでタカ子は、整理収納アドバイザーの中村真穂に依頼するのであった。

整理収納アドバイザーの真穂が、依頼者の部屋だけでなく、人生も整える5つの連作短編小説です。



「遊園地ぐるぐるめ」

青山 美智子・田中 達也／著

ポプラ社

とある町にある山中青田遊園地、通称ぐるぐるめ。そこへ訪れた6組のお客さん達を含む8つの連作短編集。人それぞれ様々な人間模様があり、皆この遊園地で元気や楽しさをもたらって帰っていく。

ミニチュアアートの田中達也さんの作品を見て青山美智子さんが物語を書き、その物語を読んで、田中さんがさらにアートを作成したコラボ作品。田中さんのアート写真も各章の前後に収録されているので、相乗効果でほっこり癒やされるはず！